

第3学年 国語科 年間計画

学期	単元	教材名	学習内容を通して身につけたい力
1学期	深まる学びへ	詩 春に	・詩に込められた筆者の思いを読み取ることができる。 ・表現の特徴を生かしながら朗読することができる。
		小説 握手	・作者の思いを的確に読み取ることができる。
		学びて時にこれを習ふ	・孔子の考え方を自分たちの生活と関連づけて考えることができる。
		社会との関わりを伝えよう	・話す相手や目的を意識して話し方を工夫することができる。
	視野を広げて	熟語の読み方	・熟語の読み方の種類を理解することができる。
		月の起源を探る	・説明文を読んで段落のまとめや働きを理解することができる。
		言葉 和語・漢語・外来語	・言葉の意味の理解を深めて、語彙を豊かにすることができる。 ・それぞれの語種の特徴を理解し日常に生かすことができる。
	読書生活を豊かに	高瀬舟	・心情描写だけでなく、行動描写、文学的表現に注意して、登場人物の心の変化をとらえることができる。
未来の私にお薦めの本		・読書生活について振り返り、本とのかかわり方について考えることができる。	
2学期	言葉を見つめる	俳句 俳句の可能性 俳句を味わおう	・俳句を鑑賞して、自分なりの感想を書くことができる。
		言葉を選ぼう	・コミュニケーションを取るうえで、相手に伝わりやすい言葉を選ぶことができる。
		「批評」の言葉をためる	・筆者の考えを読み取り、自分の考えを深めることができる。
		文法 すいかは幾つ必要？	・学習した文法を、実際の文章の中で生かすことができる。
	状況の中で	詩 挨拶—原爆の写真によせて	・詩に表現されている内容や作者の考え方を、現代社会の状況と重ね合わせながら読み取ることができる。
		慣用句・ことわざ・故事成語	・基本的な語彙を身につけることができる。
	いにしへの心と語らう	古典 古今和歌集 仮名序	・和歌とはどのようなものであるかをつかむことができる。
		古典 君待つと	・和歌の内容を捉え、味わうことができる。 ・和歌の鑑賞文を書くことができる。
		古典 夏草	・古文の暗唱をはっきりと言うことができる。 ・古文特有の表現を理解できる。
		文学史 古典を心の中に	・主要な文学作品、作者を覚える。
3学期	論旨を捉えて	説明文 作られた「物語」を超えて	・論理の展開に着目して、主張を捉えることができる。 ・筆者の物の見方や考え方を踏まえて、人間・社会・自然などについて自分の考えをもつことができる。
		説得力のある文章を書こう	・論理の展開や表現の仕方を工夫して、自分の考えを表現することができる。
		文法 「ない」の違いがわからない？	・同じような言葉を文法上の性質の違いによって識別することができる。
	状況の中で	小説 故郷	・登場人物の心の移り変わりを本文に即して読み取ることができる。
		温かいスープ	・国際性について筆者の意見を捉え、考えることができる。
	未来へ向かって	論説 誰かの代わりに	・筆者の物の見方や考え方を捉えることができる。
文法	文法 一、二年生の復習	・学習した文法を、実際の文章の中で生かすことができる。	

学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をせず、授業に必要なものは机の上に出して準備しておく。
2. 先生の話や説明、友達の発表や意見をしっかり聞く。
3. わからないことをすぐに人に聞くのではなく、自分で考えて自分の言葉で言えるようにする。
4. ノートは、黒板を写すだけではなく、先生の話で重要だと思ったことや参考になる友達の意見も書いていく。
5. 「わからないところ」をわからないままにしておかないで、質問をする。

II 家庭での学習

1. 復習を中心に学習する。 → その日の習ったことはその日に理解する。
 - ・教科書の文章や問題をよく読む。
 - ・授業のノートやメモ、プリント等を見る。
 - ・問題練習・・・国語のワーク、漢字のワーク、漢字練習ノートをする。
2. 宿題は必ず行う。
3. 少しずつでも毎日勉強する。(音読、漢字練習等) 国語辞典、漢和辞典と仲良くなる。
4. 授業内容に関連した本を読む。

第3学年 社会科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたいことができる
一学期	歴史的分野 第6章 二度の世界大戦と日本	1節 2度の世界大戦と日本	
		1 第一次世界大戦	第一次世界大戦について、背景と経過、大きな被害などを通して理解することができる。
		2 ロシア革命	ロシア革命の背景と経過とその後について理解することができる。
		3 国際協調の高まり	国際連盟の特色を、世界平和と国際協調の面から理解することができる。
		4 アジアの民族運動	アジアにおける民族運動について理解することができる。
		5 大正デモクラシーと政党内閣の成立	大正デモクラシーについて護憲運動や普通選挙の実現を通して理解することができる。
		6 広がる社会運動と普通選挙の実現	護憲運動などの影響を受け、民衆運動が盛んになったことを理解することができる。
		7 新しい文化と生活	大正期の教育、文化の大衆化について理解することができる。
		2節 世界恐慌と日本の中国侵略	世界恐慌の概要と、欧米諸国の対応について理解することができる。
		1 世界恐慌とブロック経済	ファシズムの実態と世界の動きに関連する日本の政治の流れを理解することができる。
		2 欧米の情勢と日本	満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解することができる。
		3 日本の中国侵略	日本の中国侵略の実態とそれに対する中国民衆の動きを理解することができる。
		4 日中全面戦争	日中戦争についての背景や戦時体制について理解することができる
		3節 第二次世界大戦と日本	
	1 第二次世界大戦の始まり	第2次世界大戦についての内容と日本の行動を理解することができる。	
	2 太平洋戦争の開始	日本のとった南進政策について考え、太平洋戦争の背景・経緯について理解することができる。	
	3 戦時下の人々	戦争の長期化とともに国民生活が破綻していく実態を理解することができる。	
	4 戦争の終結	戦争終結の実態と経緯、被害の実態を理解することができる。	
	第7章 現代の日本と世界	1節 戦後日本の発展と国際社会	
	1 占領下の日本	GHQによる民主化政策と憲法制定について戦前と比較し理解することができる。	
2 民主化と日本国憲法	戦前との比較によって、改革の実態を理解することができる。		
3 冷戦の開始と植民地の解放	国際連合の誕生と冷戦について理解し、戦後のアジアの動きに着目することができる。		
4 独立の回復と55年体制	占領政策の転換を理解し、戦後の条約について理解することができる。		
5 緊張緩和と日本外交	世界の緊張緩和の動きを理解し、日本の外交を沖縄の復帰を中心に話し合うことができる。		
6 日本の高度経済成長	日本の高度経済成長の内容と社会の変化について理解することができる。		
2節 新たな時代の日本と世界			
1 冷戦後の国際社会	冷戦終結とその後の国際協調の動きについて理解することができる。		
2 変化の中の日本	近年の日本の政治の流れを経済と関連づけて理解することができる。		
3 よりよい未来に向けて	国際社会のなかでの日本の果たすべき役割について考えることができる。		
公民的分野 第1編 私たちと現代社会	1 私たちが生きる現代社会の特色	少子高齢化の視点から、日本の人口構造の変化を理解し、将来の人口推移や社会変容から、福祉の充実が必要となることに気づくことができる。 情報化による社会への影響を理解し、情報活用ことができる。や情報モラルを身に付けることが大切であることに気づくことができる。 グローバル化の進展によって、異文化共存や国際協力ができる。の必要性が増大していることに関心を持つことができる。	
	2 現代社会の文化と私たち	身近なものを題材にして、文化と文化の多様性について考え、文化が現代社会に大きな影響をおよぼしていることを理解することができる。 グローバル化における文化のありように関心を持ち、文化の多様性を尊重する姿勢を養い、世界に受容される日本文化を通じてこれからの日本文化について考えることができる。 日本の伝統と文化はどのようにつくられてきたかを理解し、文化には変わる部分と変わらない部分があり、それは何かを考えることができる。	
	3 現代社会をとらえる見方や考え方	私たちの社会において、きまりが果たしている役割について理解することができる。 社会では様々な対立が生まれた場合、多様な人がともに成り立ち、合意できるような努めことができるがなされていることを理解する。その上で、問題を解決する際の望ましい決定の仕方について考えることができる。 合意の妥当性を判断する際に無駄を省く「効率」と、決定の手続きや内容についての「公正」が必要であることを理解することができる。 身近な問題について「対立と合意」「効率と公正」などのフレームを用いて考えることができる。 契約という概念を理解し、契約したことをきまりとして守ることの意味や、その結果に伴う責任について理解することができる。	
第2編 私たちの生活と政治	第1章 個人の尊重と日本国憲法		
1 法に基づく政治と日本国憲法	政治の働きを理解し、民主主義のしくみと方法がもつ意味について考えることができる。 法に基づく政治の大切さを歴史的な流れをもとに考え、なぜ憲法が必要なのか、憲法の特質は何かを理解することができる。 日本国憲法がどのような経緯で制定されたかを理解する。日本国憲法の三つの基本原理は、どのような背景から成立したかを考えることができる。		
2 日本国憲法と基本的人権	国民主権の考え方がなぜ必要なのかを考える。国民がどのように主権を行使するかを理解することができる。 基本的人権の意味を理解し、その獲得の歴史を理解し、日本国憲法の人権保障を理解することができる。 私たちが個人として尊重され、個性や才能をのばすために、国家から不当な干渉や妨害を受けない自由権があることを理解することができる。 基本的人権を基礎づける法の下での平等の意義を理解し、男女共同参画社会や障害者とともに生きる社会を実現するための施策について考えることができる。 基本的人権の基礎となる平等権の意義を理解し、現存する差別問題を解決し、ともに生きる社会を実現するための施策について考えることができる。 なぜ社会権が必要になったのかを考え、その背景をふまえ、社会権の各権利について理解をすることができる。 参政権や請求権の重要性を考え、それがどのように人権を保障しているのかを理解することができる。 なぜ新しい人権が求められるようになったのかを考え、新しい人権にはどのようなものがあるのかを理解することができる。		

二 学 期	第3編 私たちの生活と経済	3 日本の平和主義	環境権が主張されるようになった背景を理解する。現存する国際的課題から、今後どのような人権保障が必要になるのかを考えることができる。
		第2章 民主主義と日本の政治	日本国憲法が示す平和主義について理解し、これからの日本の平和のあり方を、日本国憲法と照らし合わせて考えることができる。日本の状況について、日米安保条約や沖縄の基地問題をふまえて理解し、平和主義に基いたこれからの日本の平和への課題を考えることができる。
		1 民主政治と政治参加	民主政治を守るうえで権力が分立的な役割を果たしていることを理解することができる。民主政治での選挙の意義について考え、日本の選挙制度を理解することができる。民主政治における政党の意義や役割を理解し、政党の政策を調べ比較し、課題を読み取ることができる。
		2 暮らしを支える地方自治	世論のはたす役割を理解し、マスメディアの働きと課題について考え、メディアリテラシーの大切さを理解することができる。地方自治が民主政治の基礎であることを理解する。地方政治のしくみを理解し、住民が直接、政治に参加できることを理解することができる。地方公共団体の仕事が住民の生活と深く関わっていることを理解する。自らが地方の形成に参画する意欲をもつことができる。地方財政の課題について考察し、自分の意見をまとめる。また、住民の多様な要望に応えるための、NPOやボランティアの活動の重要性を理解することができる。
		3 国の政治のしくみ	議院制民主主義、及び国会のしくみを理解することができる。衆議院の優越について考えることができる。国会の仕事を理解し、なぜ多くの時間をかけて立法するのかを考え、法律ができる過程を説明することができる。行政および内閣の仕組みを理解する。議院内閣制について説明することができる。内閣の仕事を理解し、行政改革の必要性を考えることができる。裁判の意義について考え、理解する。司法権の独立や違憲審査制などから、国民の自由や権利を守っていることを理解することができる。民事裁判と刑事裁判の違いとそれぞれのしくみを理解する。冤罪事件をふまえて、刑事裁判における被疑者や被告人の人権を守るための権利があることを理解することができる。司法制度改革と裁判員制度について理解し、裁判員になることは大切な政治参加であることを理解することができる。三権分立の意義としくみを理解する。私たちの行動が政治に与える影響を自覚し、主体的に政治に参加する意欲を持つことができる。身近な消費生活を中心に、経済活動の意義を理解する。消費の注意点や消費者を守る法律を通して、賢明な消費生活のあり方を考えることができる。消費生活を営む単位である家計の成り立ちを理解し、収入の種類、支出の内訳を理解し、貯蓄の目的について考えることができる。私たちの消費生活は、生産をはじめ流通・商業によって成り立っていることに興味を持つことができる。
		1 消費生活と経済のしくみ	市場経済における価格の決まり方とそのはたらきを理解することができる。
		2 生産の場としての企業	様々な生産活動について、具体的な例を通して考え、自然・資本財・労働とすることができるに加え、生産活動を効率的に行う上で重要になっている生産要素について、具体的な例を通して考えることができる。株式会社の設立や運営のしくみなどについて理解する。社会の一員として、企業はどのように社会に関わっていくべきか考えることができる。資本主義経済のすぐれた特徴と、生産の集中の問題を、企業や消費者の立場から効率・公正の視点を活用して考えることができる。身近な事例をもとに金融機関の意義と役割について考える。日本銀行の役割について理解することができる。グローバル化における企業活動の変化と、それにより生じる課題とその対応について理解することができる。労働の意味について考え、労働基準法のねらいや労働組合の役割を理解することができる。現代における雇用の特徴とその変化について理解することができる。将来どのような労働条件で働きたいか考え、「ワーク・ライフ・バランス」を意識した意見を考えることができる。
		3 金融のしくみとお金の価値	身近な事例から、金融機関の役割について理解することができる。日本銀行の3つの役割について考え、日本銀行の金融政策が経済に及ぼす影響を理解することができる。為替相場のしくみと為替相場が変動することを理解し、その変動が企業や私たちの生活に及ぼす影響と問題点を考えることができる。お金を借りることは元本に加えて利息を支払わなければならないことを理解し、自己破産の危険性について理解することができる。
		4 財政と国民の福祉	国民生活を支えるために、国や地方公共団体が行う経済活動である財政の役割について理解することができる。税と国債の意義を理解し、公平な税負担と国債のあり方について考えることができる。市場経済における景気変動は避けられないことを理解し、景気安定のために行われている政策を理解することができる。生存権を実現するために社会保障制度があることと、日本の社会保障制度のしくみを理解することができる。年金の世代間扶養方式のしくみを理解し、急速にすすむ少子高齢化の現状から、今後の年金制度について考えることができる。環境保全における政府のあり方について理解することができる。
		三 学 期	第4編 私たちと国際社会
2 国際社会の課題と私たちの取り組み	南北問題や南南問題の原因や解決策について考え、また世界の人口増加の現状を理解し、その問題点に気づくことができる。世界の資源・エネルギー問題について理解し、エネルギー対策への見方や考え方につなげることができる。持続可能な社会をつくるための取り組みを考え、その国際的な協力ができると国内での取り組みについて理解することができる。人間の安全保障の考え方を理解し、経済面だけでなく人間を尊重するための国際協力ができるとの大切さを理解することができる。		
通年	第5編 私たちの課題	接続可能な社会を目指して	国際協定の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解することができる。
通年	帰りの学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。		

学習の進め方

I 学校での学習

1. 準備物がそろっている。
2. 先生の話をしっかり聞く。
学習内容を説明しているとき、活動内容の指示を出している時、課題の説明をしている時など、集中して聞く。
3. 調べ学習やグループ活動、課題に取り組んでいるときなどは、分からないことがあればその時に積極的に質問し解決に努める。
4. 「わからないところ」をわからないままにせず、先生や友だちに質問をする。

II 家庭での学習

1. 復習を中心に学習する。→ その日習ったことをその日に理解する。
・教科書とノートを見直し、自分の意見や考えをまとめる(ポイント整理)。
2. 次の授業に備えて、教科書を1度読んでおく。

第3学年 数学科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	1章 式の展開と 因数分解	1. 式の展開と因数分解 § 1. 式の乗法、除法 § 2. 乗法の公式 § 3. 素因数分解 § 4. 因数分解 2. 式の計算の利用 § 1. 式の計算の利用	<ul style="list-style-type: none"> 多項式と単項式の乗除や多項式の積の展開ができる。 乗法の公式を使って、いろいろな式の展開ができる。 自然数を素因数分解することができる。 共通因数を取り出したり、乗法の公式を利用して、多項式を因数分解することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 式の展開や因数分解を使って、問題を解決することができる。
	2章 平方根	1. 平方根 § 1. 平方根 § 2. 平方根の値 § 3. 有理数と無理数 2. 根号をふくむ式の計算 § 1. 根号をふくむ式の乗法、除法 § 2. 根号をふくむ式の計算	<ul style="list-style-type: none"> 平方根の意味を理解し、数の平方根を求めたり、平方根の大小を不等号を用いて表したりすることができる。 数の大小関係を利用して、平方根の値を求めることができる。また電卓を用いて平方根のおよその値を求めることができる。 有理数と無理数の違いを理解することができる。 有理数を表す無限小数と無理数を表す小数の違いを理解することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 根号をふくむ式の乗法や除法、分母の有理化や変形、また近似値を求めることができる。 根号をふくむ式の和と差や、根号をふくむ式の積の計算ができる。
2 学期	3章 二次方程式	3. 平方根の利用 § 1. 平方根の利用 1. 二次方程式 § 1. 二次方程式とその解き方 § 2. 二次方程式の解の公式 § 3. 二次方程式と因数分解 2. 二次方程式の利用 § 1. 二次方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 平方根を利用して、いろいろな問題を解決することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 平方根の考えを使って、簡単な二次方程式を解くことができる。 $(x+m)^2 = n$ の形に変形し、二次方程式を解くことができる。 解の公式を用いて二次方程式を解くことができる。 因数分解を利用して、二次方程式を解くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> 二次方程式を利用して問題を解決することができる。
	4章 関数 $y = ax^2$	1. 関数とグラフ § 1. 関数 $y = ax^2$ § 2. 関数 $y = ax^2$ のグラフ 2. 関数 $y = ax^2$ の値の変化 § 1. 関数 $y = ax^2$ の値の増減と変域 § 2. 関数 $y = ax^2$ の変化の割合 3. いろいろな事象と関数 § 1. 関数 $y = ax^2$ の利用 § 2. いろいろな関数	<ul style="list-style-type: none"> 2乗に比例する関数の関係を式に表すことができる。 関数 $y = ax^2$ のグラフをかくことができ、その特徴が理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> 関数 $y = ax^2$ の値の変化について理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> 関数 $y = ax^2$ について x の変域が与えられているとき、y の変域を求めることができる。 関数 $y = ax^2$ の変化の割合を求めることができる。 <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの事象から、関数 $y = ax^2$ の関係を見出し、問題を解決することができる。 グラフが階段状になる関数などがあることを知り、関数の考え方を広げる。
	5章 図形と相似	1. 図形と相似 § 1. 相似な図形 § 2. 三角形の相似条件 § 3. 相似条件と証明 2. 平行線と線分の比 § 1. 平行線と線分の比 § 2. 中点連結定理 3. 相似な図形の計量 § 1. 相似な図形の面積 § 2. 相似な立体の表面積・体積 4. 相似の利用 § 1. 相似の利用	<ul style="list-style-type: none"> 2つの図形が相似であることを、記号使って表したり、相似比や対応する辺の長さを求めることができる。 合同条件を参考にして相似な三角形をかくことができる。また、三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似かどうか判定できる。 簡単な場合について、三角形の相似条件を用いて証明することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 平行線と線分の比の性質を利用して、辺の長さをもとめることができる。 中点連結定理を使って、辺の長さを求めることができる。 <ul style="list-style-type: none"> 相似比より面積を求めることができる。 相似比より表面積の比・体積の比の関係を理解することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件を満たす縮図を利用して、実際の長さを求めることができる。 相似の考え方をを使って、問題解決することができる。

2 学期	6章 円の性質	1. 円周角と中心角 § 1. 円周角と中心角 § 2. 円周角の定理の逆 2. 円の性質の利用 § 1. 円周の性質の利用	<ul style="list-style-type: none"> 円周角の意味、及び円周角の定理を理解することができる。 円周角の定理の逆を理解することができる。 円周角の定理を利用して、円の接線の作図ができる。 円周角の定理を利用して、図形の性質を明らかにすることができる。
3 学期	7章 三平方の定理	1. 三平方の定理 § 1. 三平方の定理 2. 三平方の定理の利用 § 1. 平面図形への利用 § 2. 空間図形への利用	<ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理を使って辺の長さを求めたり、三平方の定理の逆を使って直角三角形を見出すことができる。 正三角形の高さ、弦の長さ、2点間の距離などを、三平方の定理を使って求めることができる。 直方体の対角線の長さや正四角錐の高さなどを、三平方の定理を使って求めることができる。
	8章 標本調査	1. 標本調査 § 1. 標本調査 § 2. 標本調査の活用 3年間の総復習	<ul style="list-style-type: none"> 標本調査の必要性とその意味を知る。 標本調査の方法を理解することができる。 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえることができる。
通年	帰り学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。		

学習の進め方

I 学校での学習

- 忘れ物をしない。
- 先生の説明や友達の見聞をしっかりと聞く。
- ノートはただ黒板を写すだけでなく、考えながら書いていく。必要に応じてメモを書き加えていく。
- 自分でしっかり考える。
- わからないことがあれば周りの人に質問する。質問されたらいいに説明する。
- 「わからないところ」をわからないままにしておかないで、その日のうちに解決する。

II 家庭での学習

- 復習を中心に学習する。 → その日に習ったことはその日のうちに理解する。
 - 教科書の問題や例題を答えを見ずに解く。
 - 授業中解いた問題をもう一度解く。
 - 問題練習・・・ベーシックマスター・完成問題集の問題を解いてみる。
 - その日の授業内容をまとめる。
 } 5行まとめ
- 宿題は必ず家で行う。
- 1・2年生の内容を復習を計画的に進める。

第3学年 理科 年間計画

下記「通年」のらんの「注※」もご覧ください。

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	【地球】 (2年未履修) 地球の大気と 天気の変化	2章 天気の変化と大気の動き	・大気の動きと天気との関係を理解し、日本付近での気団や大気の動き方の規則性と天気の変化について説明できる。
		3章 大気の動きと日本の四季	・日本の気象を日本付近の大気の動きや気団の影響に関連づけて説明できる。
1 学期	【物質】 化学変化と イオン	4章 自然の恵みと気象災害	・自然がもたらす恵みや災害について多面的、総合的にとらえ自然と人間のかかわり方について考察できる。
		1章 水溶液とイオン	・水溶液の電気伝導性や中和反応について理解し、それらの事象・現象をイオンのモデルと関連付ける見方や考え方ができる。 ・水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることや、電気分解で電極に物質が生成することなどから、イオンの存在を説明できる。 ・イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを知る。 ・化学エネルギーが電気エネルギーに変換される電池とイオンを関連付けて説明できる。
2 学期	【エネルギー】 運動と エネルギー	2章 酸・アルカリと塩	・酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知り、中和反応を説明できる。
		1章 力のつりあい	・物体の運動には速さと向きがあることを説明できる。 ・力は合成・分解ができることを理解し、分力や合力を作図や計算で求めることができる。
2 学期	【地球】 宇宙の中の 地球	2章 物体の運動	・物体に力がはたらく運動では運動の向きや速さが変わることを、および物体に力がはたらかない運動では等速直線運動をすることが理解できる。
		3章 仕事とエネルギー	・物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解できる。 ・仕事と仕事率について理解できる。
2 学期	【生命】 生命の 連続性	4章 多様なエネルギーとその移り変わり	・運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることを知り、力学的エネルギーの総量が保存されることを説明できる。
		5章 エネルギー資源とその利用	・日常生活や社会と関連付けて、運動とエネルギーの初歩的な見方や考え方ができる。
3 学期	【環境】 自然と人間	1章 地球とその外側の世界	・天体の日周運動の観察記録を地球の自転と関連付けて説明できる。 ・四季の星座の移り変わり、季節による昼夜の長さ、太陽高度の変化などの記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けて説明できる。
		2章 太陽と恒星の動き	・太陽、惑星とその動きの観察記録や資料に基づいて、太陽系の特徴・惑星の公転を説明できる。
3 学期	【環境】 自然と人間	3章 月と金星の動きと見え方	・地球の衛星である月の運動と見え方の特徴を理解し、説明できる。 ・太陽の特徴をもとに、他の恒星・宇宙の広がり考えることができる。
		1章 生物の成長とふえ方	・体細胞分裂の過程を理解し、細胞分裂を生物の成長と関連付けて説明できる。
3 学期	【環境】 自然と人間	2章 遺伝の規則性と遺伝子	・有性生殖と無性生殖の特徴がわかり、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わるしくみを説明できる。 ・遺伝の規則性を染色体・遺伝子をもとに説明できる。
		1章 自然界のつり合い	・自然界では生物がつり合いを保って生活していることを理解する。 ・微生物のはたらきを知り、植物、動物および微生物を栄養摂取の面から相互に関連づけてとらえることができる。
3 学期	【環境】 自然と人間	2章 人間と環境	・自然環境を保全することの重要性を認識できる。
		3章 自然が人間の生活におよぼす影響	・自然がもたらす恵みや災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察できる。
3 学期	【環境】 自然と人間	4章 科学技術と人間	・エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて調べ、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について考察できる。 ・人間は水力、火力、原子力などからエネルギーを得て、様々なエネルギーの変換を利用していることを理解する。
		5章 科学技術の利用と環境保全	・科学技術の発展の過程を調べ、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしてきたことを知る。 ・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくるのが重要であるという事を認識する。
通年	帰学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。 ※…今回の休校措置にともない、上記の履修計画は(各分野の履修順序も含めて)変更になることがあります。		

学習の進め方

I 学校での学習

- 授業で行う学習活動に意欲的に参加しよう。
「身のまわりの生物や自然現象」から学び、科学的に考えよう。
「友達の発言」や「お互いの間違い」からも学ぶ気持ちで授業に参加しよう。
(実験・観察は考察を重視。結果の内容より結果から考えたことが大切。)
(準備から片付け、レポート作りまでが実習。)

II 家庭での学習

- 復習を中心に学習する。
新しい用語をどんどん使ってみる。知識を確認しあうことが大切。
用語を正しく理解し、学習内容がつかめているか、ワークや教科書の問題をやってみよう。
忘れないように問題練習をくりかえしやってみよう。
※ 復習しやすいようにノートや自主学習ノートを工夫するとよい。
- 科学に関するニュースやTV番組を積極的に見るなどして、正しい科学の知識をふやそう。
(夏休みなどテーマを決めてじっくり科学研究や観察・採集に取り組むのもおすすめ。)

第3学年 音楽科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	合唱 鑑賞 合唱曲選曲	「夏の日の贈り物」 「花」 「ブルタバ」	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の美しさや日本人の感性の素晴らしさを感じ取り、自己の心情をもってイメージ豊かに表現することができる。 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。 音程やリズムが正確にとれ、アクセントや強弱などを適切に歌唱に活かすことができる。 歌詞の意味を考え、明瞭な発音になるよう工夫することができる。 曲の仕組みを理解して表現を工夫することができる。 想像力を働かせながら音楽を聴き、楽曲の曲想と音楽を形づくっている要素との関連に気付き、音楽のよさや美しさなどを自分の言葉で表現することができる。 作曲家についての詳細や楽曲の歴史的背景をしっかりと理解し知識にすることができる。 合唱曲選択
2 学 期	合唱コンクールにむけて 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 全校合唱曲 学年合唱曲 クラス合唱曲 「展覧会の絵」	<ul style="list-style-type: none"> 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させながら合唱することができる。 音程やリズムが正確にとれ、アクセントや強弱などを適切に歌唱に活かすことができる。 歌詞の意味を考え、明瞭な発音になるよう工夫することができる。 曲の仕組みを理解して表現を工夫することができる。 校内コンクールや合唱祭への参加を通して、いろいろな合唱曲にとりくみ、表現力を養うことができる。 音楽と各要素の結びつきを理解し、楽曲全体を味わって聴くことができる。 オーケストラの音楽に親しみ、楽器について知ろう。
3 学 期	鑑賞 混声3部合唱	平調「越天楽」 卒業式式歌	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化・音楽に関心を持ち、楽器の音色や独特な演奏効果など、その魅力や特徴を味わうことができる。 曲のもっているよさや特質を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。

学習の進め方

I 学校での学習

- ・チャイムが鳴るまでに準備物をきちんと持って音楽室に移動し、着席して授業の準備をしよう。
- ・集中して授業に取り組み、演奏や練習に意欲的に取り組もう。
- ・授業中は、教科書や楽譜を開け、どこを演奏しているのかを常に把握しよう。
- ・授業中、楽曲の演奏に関してのアドバイスは、そのつど楽譜に書きとめよう。
- ・記号や語句についての説明は、教科書にチェックして、その場で覚えていこう。

II 家庭での学習

- ・授業で習った楽曲の旋律や歌詞、記号などを確認しておこう。
- ・音符・休符・記号などを復習し、しっかりと覚えておこう。
- ・プリント類やワーク、鑑賞曲についてはしっかりと復習しておこう。

第3学年 美術科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	絵画	・自画像 ～自己をみつめて～ 背景作りと下描き	・自分自身を素直に見つめ、テーマを決めることができる。 ・画面の中に、バランスよく描くことができる。 ・図法や構成を意識し、より効果的な画面づくりができる。 ・自分なりのこだわりをもって作品を作ることができる。
	絵画	顔のデッサン	・顔をよく観察し、特徴をとらえて描くことができる。 ・光の方向を理解し、立体的に明暗をつけることができる。 ・最後まで根気よく丁寧に制作に取り組むことができる。
	鑑賞	・ビデオ鑑賞 「魂の自画像 ゴッホとシーレ」	・自分の見方や感じ方で、作者の心情や制作意図、表現のよさを感じ取ることができる。
2 学 期	絵画	～自己をみつめて～ 背景の着色	・イメージに合った色を画材の特性を活かしながら着色できる。 ・重ね塗りやグラデーションなどのテクニックをうまく使い、効果的に作品づくりができる。 ・最後まで根気よく丁寧に制作に取り組むことができる。
	工芸	・てん刻	・卒業をひかえ前向きなテーマを設定しアイデアスケッチを進めることができる。 ・作業の方法を理解し、基本的技術を習得し、計画的に進めることができる。 ・文字の特徴を生かして、楽しく効果的なデザインを発想することができる。
	鑑賞	・友達の作品を鑑賞する	・作品のよさや美しさを感じ取るとともに、意見交換ができる。 ・作品のよさを共有し、コミュニケーション力を高めることができる。
3 学 期	工芸	・てん刻	・作業の方法を理解し、基本的技術を習得し、計画的に進めることができる。 ・最後まで根気よく丁寧に制作に取り組むことができる。
	鑑賞	・鑑賞レポート	・作品について自主的に調べ、作品のよさや美しさを感じ取ることができる。 ・見やすく、かつ美しくレポートを仕上げることができる。

美術科の学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をせず、準備物をきちんと用意し、ゆとりを持って制作に取り組めるようにする。
2. 今日の授業の目標をきちんと意識して、制作する。
3. 集中して授業に取り組み、自分の力を十分に出し切る。
4. 最後まで根気よく丁寧に制作に取り組む。

II 家庭での学習

1. 身近な美術作品に興味を持ち、鑑賞する。
2. テレビや新聞などのメディアから美術に関するさまざまな情報を収集する。
3. 展覧会などに行き、実際に作品にふれる。
4. 授業中に配られたプリントや、資料集を見て復習をする。

第3学年 保健体育科男子 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	集団行動	方向転換 集合・整列 列の増減 行進	集団がひとまとまりになり効率よく行動するために、基本的な動作のきまりを身につける。 姿勢にはじまり方向転換、集合、整頓、行進、列の増減を正しく行うことができる。
	体づくり運動	力強い動きを高める運動 動きを持続する能力を高める運動 新体力テスト	自分の体力や生活に応じて、周りと協力して運動を行うことができる。 体づくり運動の必要性に気づき、課題に応じた運動をする知識を身につける。
	球技	走り高跳び バレーボール	技術や特性を理解して、自己の記録を伸ばしたり競争を楽しむことができ チームの課題や自己の能力に応じた戦術を考え、ゲームを楽しむことができる。 競技の運営やルールについて理解することができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。
	器械運動	跳び箱運動 マット運動	自分の能力に適した課題をもって、技の習得をめざして粘り強く練習することができる。 仲間と協力して教え合ったり、練習の場を整えたり、補助し合ったりして進んで運動に取り組むことができる。
	保健分野	健康の成り立ちと病気の発生要因 生活行動・生活習慣と健康 体育理論	病気の発生要因と健康な生活について理解し、自らの生活に活かそうとすることができる。 文化としてのスポーツの意義
2 学 期	球技	サッカー	基本的な技能の習得と、ルールを理解し、チームに応じた作戦を立てて積極的にゲームを楽しむことができる。 教えあいや声かけしながら、協力して練習したり準備や片づけをすることができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。 チームの課題や自己の能力に応じた戦術を考え、ゲームを楽しむことができる。 競技の運営やルールについて理解することができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。 チームの課題や自己の能力に応じた戦術を考え、ゲームを楽しむことができる。
	球技	バレーボール	基本的な技能の習得と、ルールを理解し、チームに応じた作戦を立てて積極的にゲームを楽しむことができる。 教えあいや声かけしながら、協力して練習したり準備や片づけをすることができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。 チームの課題や自己の能力に応じた戦術を考え、ゲームを楽しむことができる。 競技の運営やルールについて理解することができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。 チームの課題や自己の能力に応じた戦術を考え、ゲームを楽しむことができる。
	球技	ソフトボール	基本的な技能の習得と、ルールを理解し、チームに応じた作戦を立てて積極的にゲームを楽しむことができる。 教えあいや声かけしながら、協力して練習したり準備や片づけをすることができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。 チームの課題や自己の能力に応じた戦術を考え、ゲームを楽しむことができる。 競技の運営やルールについて理解することができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。 チームの課題や自己の能力に応じた戦術を考え、ゲームを楽しむことができる。
	陸上競技	長距離走(2000m)	自分の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。 記録向上に向けて課題解決のための取り組みをすることができる。 ①喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響を理解する。 ②感染症とその予防、性感染症について理解する。 ①②の知識を自らの生活に活かすことができる。
	保健分野	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 感染症の予防	記録向上に向けて課題解決のための取り組みをすることができる。 ①喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響を理解する。 ②感染症とその予防、性感染症について理解する。 ①②の知識を自らの生活に活かすことができる。
3 学 期	球技	卓球	フォア、バックなど基本的なショットをすることができる ルールを理解して、ゲームやラリーをすることができる。
	球技	バドミントン	ルールを理解し、ルールに基づいてバドミントンを楽しむことができる。 自分と相手チームの特徴をふまえて作戦や戦術を考える。
	保健分野	保健・医療機関や医薬品の有効活用 個人の健康を守る社会の仕組み	病気になった際の、医療機関と医薬品の正しい利用方法について理解を深め、自らの生活に活かすことができる。

学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をしない。すばやく行動し、大きな声を出して取り組む。
2. 説明や指示をきちんと聞き、練習方法を理解して取り組む。
3. 得意不得意にかかわらず向上心をもって努力する。
4. 仲間と協力して補助や片付け、教えあいを積極的に行う。

II 家庭での学習

1. 自分の課題を意識して、教科書を見直したり、できることがあれば練習をする。

第3学年 保健体育科女子 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	集団行動	方向転換 集合・整列 列の増減 行進	集団がまとまって動く意義を理解し、たがいに声をかけあって動作のきまりにしたがって正しく行う態度を養う。 姿勢、方向転換、集合、整頓、列の増減を正しく行うことができる。
	体づくり運動	力強い動きを高める運動 動きを持続する能力を高める運動 新体力テスト	自分の体力に応じてめあてを立て、周りと協力して運動を行うことができる。 体づくり運動の必要性に気づき、課題に応じた運動をする知識を身につける。
	ダンス	ダンス	思い切り動く、感じを込めて動く、リズムに乗って動く、みんなでかかわりをもって動くなどのダンスの楽しさや喜びを味わおうとすることができる。
	陸上競技	走り高跳び	規則正しい生活を送り、日々の記録を伸ばしたり記録を伸ばし続けることができる。
	保健分野	健康の成り立ちと病気の発生要因 生活行動・生活習慣と健康 体育理論	病気の発生要因と健康な生活について理解し、自らの生活に活かそうとすることができる。 文化としてのスポーツの意義
2 学期	球技	バレーボール	ルールを理解し、ルールに基づいてゲームを楽しむことができる。 チームの特色を活かしてゲームを進めることができる。 チームで作戦を立て、その作戦をゲームで発揮することができる。
	球技	ハンドボール	ルールを理解し、ルールに基づいてゲームを楽しむことができる。 チームの特色を活かしてゲームを進めることができる。 チームで作戦を立て、その作戦をゲームで発揮することができる。
	陸上競技	長距離走(2000m)	全力を出して競争したり、記録を向上させたりする楽しさや喜びを味わおうとすることができる。 自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。 記録向上に向けて練習をすることができる。
保健分野	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 感染症の予防	①喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響を理解する。 ②感染症とその予防、性感染症について理解する。 ①②の知識を自らの生活に活かすことができる。	
3 学期	球技	サッカー	基本的な技能の習得と、ルールを理解し、チームに応じた作戦を立てて積極的にゲームを楽しむことができる。 教えあいや声かけしながら、協力して練習したり準備や片づけをすることができる。 安全に留意して練習やゲームをすることができる。
	球技	卓球	フォア、バックなど基本的なショットをすることができる ルールを理解して、ゲームやラリーをすることができる。
	球技	バドミントン	ルールを理解し、ルールに基づいてバドミントンを楽しむことができる。 自分と相手チームの特徴をふまえて作戦や戦術を考える。
	保健分野	保健・医療機関や医薬品の有効活用 個人の健康を守る社会の取組み	病気になった際の、医療機関と医薬品の正しい利用方法について理解を深め、自らの生活に活かすことができる。

学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をしない。すばやく行動し、大きな声を出して取り組む。
2. 説明や指示をきちんと聞き、コツややり方を理解して取り組む。
3. 得意不得意にかかわらず向上心をもって努力する。
4. 仲間と協力して補助や片付け、教えあいを積極的にを行う。

II 家庭での学習

自分の課題を意識して、教科書を見直したりできることがあれば練習をする。

第3学年 技術科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期 (隔週)	1章 エネルギーの変換・利用と保守点検	電気を安定的に供給する仕組みを知ろう。	主な発電方式の特徴と課題について考えることができる。 電気を安定的に供給するための仕組みを説明できる。
		電気エネルギーの変換と利用方法を知ろう。	電気エネルギーを利用する仕組みを考えることができる。 電気エネルギーを光などのエネルギーに変換する仕組みを説明できる。 電気の単位や電気用図記号、電池の種類などの電気に関する基礎的な知識を身につけることができる。
		機器の保守点検の重要性を知ろう。	電気による事故の原因を知り、防止する方法を考えることができる。 機器の異常や不具合時の状況を人に説明できる。
	(2) 学期 (隔週)	2章 製作品の設計・製作	エネルギー変換を利用した製作をしよう。
電源プラグの修理ができる。 使用目的に応じた工具などを安全に使用することができる。			
3 学期 (隔週)	3章 エネルギー変換技術の評価・活用	エネルギーの有効活用について考えよう。	部品を適切に選択・調整しながら、組立てができる。(懐中電灯の製作実習) 使用目的に応じた工具などを安全に使用することができる。
			現在のエネルギー消費量の傾向と課題を考えることができる。 省エネルギーや環境に配慮した技術について考えることができる。 環境に配慮したエネルギー利用について考えることができる。

学習の進め方

I 学校での学習

- ・忘れ物はしない。
- ・先生の指示をよく聞き、安全に実習や作業をすること。
- ・分からないことがあれば、先生に聞き、理解すること。
- ・作品の製作では、絶えず工夫すること、改善点が無いか考えること。

II 家庭での学習

- ・授業で学習したことを、実践しよう。
- ・理科の学習とあわせて、回路図記号の復習や、回路図の正しい書き方を復習しておきましょう。
- ・広告やカタログなどに記載されている環境やエネルギーに関する表記を気におきましょう。
- ・最近のエネルギー問題について技術的な関心をもとう。

第3学年 家庭科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1・2 学期 (隔週)	「住生活と自立」	①住まいの役割とは何だろう ②家族と住まいのかかわりを考えよう ③安全に住むためにはどうしたらよだろう ④健康で快適な室内空間を考えよう ⑤よりよい住生活を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割や基本的な機能を理解する。 ・日本の住まいと住まい方の特徴を理解する。 ・生活行為と住空間の関係を理解する。 ・家庭内で安全に住むための室内環境の条件を理解する。 ・家庭内事故の防ぎ方や対策方法を考える。 ・災害に備えた安全対策を考える。 ・健康で心地よく住むための室内環境の条件を理解する。 ・快適な室内環境を整える方法を考える。 ・健康で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとする。【課題:掃除をしよう】 <p>モデル家族を想定し、さまざまな人の立場を考慮して、「家族が暮らしやすい住まいの工夫」を考える。【課題:平面図の設計】</p>
	「衣生活と自立」	④衣服の手入れをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の材料や状態に応じた補修ができる。 ・補修の目的と布地に適した方法を理解する。
3 学期 (隔週)	「わたしたちの消費生活」	①消費者としての自覚を持つ ②商品の選択と購入について考えよう ③消費者の権利と責任を知ろう ④消費者トラブルを解決する方法を知ろう ⑤よりよい消費生活を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の消費生活を振り返ることができる。 ・契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法の特徴を理解する。 ・消費者の基本的な権利と責任について理解する。 ・消費者基本法について理解する。 ・身近な消費者トラブルの事例とその解決方法を理解する。 ・消費者としての自覚を高め、よりよい消費生活について考える。
	「環境に配慮した消費生活」	①生活と環境のかかわりについて考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の消費行動が環境に与えている影響について考える。 ・環境に配慮した消費生活について考え、工夫する。 ・循環型社会を目指し、自分や家族にできることを考え、実践する。

学習の進め方

I 学校での学習

- 学習課題(本時の目標)をしっかりとらえ、頭と体と心をしっかり使いましょう。
- 実習では、基礎的・基本的な技術の習得をめざし、何事にも丁寧に取り組ましましょう。
- 実習では、目標と方法を理解し、安全面と衛生面に留意して取り組みましょう。
- 自分自身を見つめ、自分のことが自分でできるようになるよう、生活の自立をめざしましょう。
- 自分の周りの家族、地域、社会、環境などに興味や関心を持ちましょう。

II 家庭での学習

- 家族の一員として、いろいろな家庭での仕事に取り組ましましょう。
- 授業で学習した内容を生活に取り入れ、実践しましょう。

第3学年 英語科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆Warm-up Self-Introduction ◆Lesson 1 My Favorite Words ◆Let's Talk 1 ◆Lesson 2 France-Then and Now ◆Let's Talk 2 ◆Lesson 3 Rakugo Goes Overseas 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の文(受動態) ・Could you tell me ~ ? ・現在完了形(継続) ・What's wrong? ・現在完了形(経験) ・現在完了形(完了) ・be glad to ~ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のことについて、英語で表現することができる。 ・決められた項目について自己紹介文を作り、人前で発表できる。 ・受け身の形、意味、用法について聞いたり読んだりして理解することができる。 ・身近なところで使われている受け身の表現に気づき、好きな言葉について受け身の文を使って伝えることができる。 ・英語の表現を用いて、道順を尋ねたり案内したりすることができる。 ・現在完了(継続用法)を使い、話したり書いたりして、表現することができる。 ・フランスについて関心を持ち、日本との文化交流について知る。 ・英語の表現を用いて、病状について尋ねたり説明したりすることができる。 ・現在完了(経験用法)を使い、話したり書いたりして、表現することができる。 ・現在完了(完了用法)を使い、話したり書いたりして、表現することができる。 ・日本の伝統文化について知り、世界に発信したい文化について考える。
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆Lesson 4 The Story of Sadako ◆Let's Talk 3 Dolphin Tale ◆Lesson 5 Places to Go, Things to Do ◆Lesson 6 I Have a Dream ◆Let's Talk 4 ◆Lesson 7 English for Me 	<ul style="list-style-type: none"> ・call / make + A + B ・It is + 形容詞 + for ... to - ・Would you ~ ? ・関係代名詞 ・Shall I ~ ? ・現在分詞および過去分詞による後置修飾 ・Would you like ~ ? ・want + A + to ~ ・間接疑問 	<ul style="list-style-type: none"> ・call / make + A + B を使い、話したり書いたりして、表現することができる。 ・「It is + 形容詞 + for ... to -」を用いた文の形、意味、用法について聞いたり読んだりして理解することができる。 ・広島の大原の被害にあった少女についての物語を読み、平和について考えることができる。 ・英語の表現を用いて、ていねいに依頼したり、承諾したりすることができる。 ・物語を読み、人間と動物との共生について知り、登場人物の気持ちについて考えることができる。 ・関係代名詞that, who, whichを用いた文の形、意味、用法について聞いたり読んだりして理解することができる。 ・世界のさまざまな国・地域とその文化について知り、関心を高める。 ・英語の表現を用いて、申し出たり、承諾したり断ったりすることができる。 ・must, must notを用いた文の形、意味、用法について聞いたり読んだりして理解することができる。 ・現在分詞及び過去分詞による後置修飾を用いた文の形、意味、用法について聞いたり読んだりして理解することができる。 ・キング牧師のスピーチをとおして、アメリカの公民権運動の歴史について理解する。 ・食べ物や飲み物をていねいにすすめたり、承諾したり断ったりすることができる。 ・want + A + to ~ を使い、話したり書いたりして、表現することができる。 ・間接疑問文を用いた文の形、意味、用法について聞いたり読んだりして理解することができる。 ・英語と自分とのかかわりについて考える。
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆Let's Talk 5 ◆Let's Read 2 We Can Change Our World ◆Let's Read 3 The Story of Nishikori Kei 	<ul style="list-style-type: none"> ・Could you ~ ? 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の表現を用いて、ていねいに依頼したり、承諾したり、くり返したりすることができる。 ・一人ひとりができる社会貢献について関心を高め、身近でできることを考えることができる。 ・スポーツなどで成功した人の生きざまに関心を高める。
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領対応 中学校外国語教材 Bridgeを適宜利用する。 ・帰り学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。 		

学習の進め方

I 学校での学習

1. 本読み、単語読みなどをするときには、英語の発音、イントネーションに気をつけて大きな声で行う。
2. ペアワークなどの活動で英語を話す時は、積極的に行う。
3. 授業での学習ポイントや、日本語訳をノートにきちんと書く。
4. 教師の発問をしっかり考え、答える。
5. 「わからないところ」をわからないままにしておかないで、必ず質問をする。

II 家庭での学習

1. 復習を中心に学習する。 → その日に学習したことはその日のうちに理解する。
 - ・授業で習った単語や本文を音読したり、音読筆写で覚えられるように復習する。
 - ・ワークブックを使って、文法事項や重要表現を復習する。
2. 宿題は必ず行う。予習として、ノートに単語・本文写しをする。
3. 毎日学習する。自主学習ノートを活用し、授業ノートの写し直し等に取り組むと良い。